



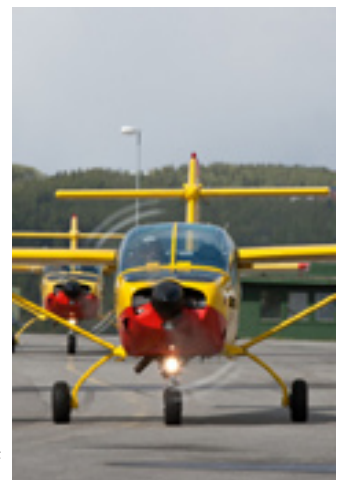
北極圏の境界線から北に約280km。北欧スカンディナヴィア半島の西側を占めるノルウェー王国の北方、トムス県バルドフォス航空基地に、同国空軍のパイロットを養成するための初等教育機関、空軍飛行学校 (LFS=Luftvorsvaret Flygeskole) がある。

ノルウェー空軍の学生パイロットがLFSで過ごす期間は6ヶ月。徴兵の歳になって医学・身体・心理検査をパスし、空軍大学で軍人としての教育を受けたばかりの若者たちが、毎年1月になるとLFSにやってくる。ここでの日々は訓練と学習、そして両方の試験の繰り返しだ。毎日12時間におよぶ座学で学ぶのは、航空力学、気象学、航空機全般、航空管制、航空英語、局地飛行の手順、航空医学、航法、計器の使用法…といったところ。その一方でMIF-15サファリで行う飛行訓練があり、最低18時間の訓

練を通して基本的な操縦技術や知識を学ぶ。日に日に難易度を増す飛行訓練でミスが許されるのは2回までで、3回やると基地司令に呼び出され、訓練を続けるか、やめるか話し合うことになる。

みごとLFSを修了したパイロットの進路は、教官パイロットが適性を判断して決める。高速ジェット機コースに進む者は米国テキサス州シェパード空軍基地、回転翼機コースに進む者はアラバマ州の米陸軍フォート・ラッカーに留学して高等訓練を受ける。なお1952年から続くLFSの伝統により、主席の者は第一希望の機種への進路を選ぶことができ、また卒業時に褒賞としてF-16B後席での飛行を体験する。

編隊タキシングするMFI-15サファリ。
サファリの座席は前席が並列複座、後席は単座で前席と背中合わせになる



ノルウェー

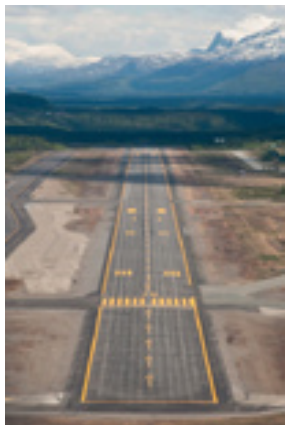
Photos and Text by Cristian Schrik & Elmar Keetman

フィヨルドの国の 黄色い練習機



LFSの校章。教官パイロットは右胸に中央のマークのバッジをつけている。右のラウンデルはLFSの記章で、左のラウンデルはノルウェー空軍の国籍標識

バルドフォス航空基地の滑走路。同基地はノルウェー空軍最大のヘリコプター基地でもある。現在、第139航空団の隷下に第337飛行隊(リンクスMk.86)、第339飛行隊(ベル412SP)の2個飛行隊があり、NH-90の導入と共に第334飛行隊も発足する予定



飛行訓練に臨む学生パイロット(右)と教官パイロット。背中には緊急時のためのパラシュートを背負っている



LFSでは1981年に22機のMFI-15サファリを導入し、現在16機を運用している。以前はパイパー・スーパーカブ(1955~91年)とセスナ・バードドッグ(1960~91年)を使用していた



2009年にノルウェー空軍のパイロットを志願した若者は1350名。うち29名がLFSへの入校を許され、2010年夏、13名がパイロットに、2名がナビゲーターになった。(写真では、前列の両脇2名ずつと後列左端が教官)



ノルウェーの地形は変化に富む。●は河川の上空、●はスカンディナヴィア山脈をバックに、●は基地周辺をウイングウォークで飛ぶMFI-15サファリ。海や川では氷が白く、山々では万年雪が白い。そして地上を覆うのは常緑の針葉樹林。一見ポップな印象の黄色い塗装はノルウェーの空でよく目立つ



LFSでは初等練習機としてMFI-15サファリを使用している。スウェーデンのマルメ・フリグインダストリ社が開発した3人乗りのレスプロ機で、高翼なので下方視界がよい。巡航速度は105ノット、失速速度55ノット、最大速度145ノットと、速度域も初等練習機として申し分ない